

## 漢詩「南風村莊雜吟」を読む 感じる 考える

発表者：福田会員

漢詩分科会では原三溪が作った漢詩『三溪集』の読み解きを進めています。今回はその成果のひとつとして「南風村莊雜吟」について福田会員から発表がありました。

南風村莊とは、三溪の伊豆長岡（現在の伊豆の国市長岡）の別荘で、当初は大正時代初期に購入した2階建旅館風建物でありましたが、昭和4年近くの神戸（ごうど）地区に新築し転居しました。

「南風村莊雜吟」は『三溪集』に2作あり、一つは大正11年以前に作られた五言絶句四首、他は大正15年作の五言絶句四首と七言絶句半首です。前者は伊豆で目にした季節ごとの平和で幸せな風景を「牛背の安らぎに如かず」と表現し、後者は春の伊豆から大佛山を眺め南風村莊命名の由来と考えられる中国古代の「南風の詩」を思い出していて、三溪さんの心情が読み取れます。山と言えば富士山ですが南風村莊から見ると北にあり、一方南には寝釈迦山の別名がある葛城山があります。南風村莊から眺めることができ三溪さんが詩に詠んだのは果たしてどの山なのか、大いに議論が盛り上がりました。



中国の古典や伊豆半島の地図を参照しながら漢詩を読み解きます

## 「もっと知ろう！原三溪—原三溪市民研究会10年の足跡」展



2019年7月から横浜美術館で開催される「原三溪の美術」展に関連して原三溪市民研究会が行う展示のタイトルが決まりました。2019年は三溪生誕150年・没後80年であると同時に、原三溪市民研究会にとっても現在の形での活動を開始して10周年の節目です。展示内容や方法についての詳細は今後詰めていきますが、美術館に来てくださる方に見てもらいたいものや解説したいものは多数あり、今後の準備の進捗が待たれます。